

令和4年度の遊佐部会でいただいた主なコメント

1. 漁業関係

○風車が立てば間違いなく今やっている漁業には支障が出る。そのうえで、「支障を及ぼさないこと」をどう担保するか。この辺の議論を進めていきたい。

2. 地域振興策関係

○遊佐町の10年後の人口減を考えると、洋上風力発電の導入における関連産業の拠点の誘致、それらに係る人材育成、経済及び雇用創出効果や投資の促進など、議論を加速する必要がある。

○酒田港は水素の扱いだとか、水素を作ることに於いて昔から歴史があり、非常に技術に長けている。そのため、洋上風力発電の電気を単純に送電して都会に送るのではなく、例えば、地元で発電した電気で水素を作り、価値をつけて産業振興を図るという方向を考えるべきではないか。

3. 進め方関係

○地域の意見を本当に尊重して国に上げていただきたい。漁業者も含めて、こんなはずじゃなかったという事態は絶対避けなければいけない。

○この案件が出てきた時、(鮭孵化の)各組合で相当議論した。それでも、我々は共存の道を選んだ。したがって、この洋上風力発電事業が我々のサケの増殖とマッチするような取組みをしていかなければならないという視点で課題も申し上げてきた。やり方によっては、それが可能だと思っている。これからは、どうすれば良い方向にいけるかをこの場で議論したい。いつも同じようなことを繰り返しては将来を描くことができないのではないかと懸念し始めている。

○この事業は1年2年で終わる事業ではないため、県をあげて我々の子供、孫又はひ孫の代までシミュレートし、取組むべき事業だと考える。ぜひとも法定協議会で、着実に協議を進行していただき、事業化に繋がるよう期待している。

○遊佐町沖の洋上風力発電には酒田港が必要不可欠である。このことから、酒田港が基地港湾に指定されるには港湾計画変更到我が遊佐町沖の洋上風力発電も加えた計画を策定するのが最善の作業である。遊佐町沖及び酒田市沖の洋上風力発電についても協調した形で取り組む必要がある。

- これから 30 年を見据えた現在の 20 代、30 代の年代を対象とした何か他の事業と組み合わせて県と遊佐町から説明会を実施していただきたい。
- 日本海側の場合、北海道、青森県、秋田県、山形県そして新潟県など、これから先、数十年の間に次々と連続したウィンドファームができる。そうすると、それぞれ単独の環境影響ではなく、空間的な意味での累積的な影響も考えないといけない。しかし、環境影響だけでなく、地域における地域振興、産業振興、漁業協調、漁業共生などについても連携をしていくことを考えても良いのではないか。各地域で説明会を開催してほしいという要望が出されているが、これはどの地域でも繰り返し丁寧な説明を行政の責任でやっていただきたい。
- 酒田港湾の利活用を踏まえて、酒田との連携が非常に重要であるという意見があったが、全くその通りである。長期的・広域的に考えると、より一層洋上風力発電事業の効果を引き出せるのではないか。せっかく遊佐町沖でここまで率先してやってきているので、他の地域との連携はどうなのかという考え方もあるかもしれないが、長期的・広域的な視点で考えれば、より効果を引き出せる。例えば、電力、水素の活用という話があるが、インフラ整備などの対策が必要であり、遊佐町だけで完結するのは難しいところがある。